

2016年12月22日(木)

みらいの扉



高等特別支援学校 支援部 第 90号

※ここは自分がしっかりしなきゃ※

12月15日(木)に1～3学年15クラス対抗の球技大会が行われました。ソフトバレーボール大会です。

ボールは普通のバレーボールより2周りくらい大きく、ゴム製の軽いものです。当たっても全く痛みはなく、恐怖心ゼロでゲームできます。ドッジボール大会など本校の他の球技大会でよく使われるものです。

生徒達はみんな“優勝”が大好きです。でも、15チームもあるのでそんなに簡単に優勝できません。

今回の優勝は3-4でした。3年生ならではのチームワークのよさが活かされました。得意な生徒はコート中を走り回り、苦手な生徒はフォローと励ましのことばに支えられました。

優勝が決まって、みんな笑顔です。

教員をしていると、生徒達のステキな瞬間に出会えることがあって、ほっこりした気分になります。前回の“数学の授業の成長の場”もそうなのですが、ちょっと昔の球技大会を思い出したので、私の思い出話にお付き合いください。

新入生歓迎のドッジボール大会だったので、4月の事だったと思います。

クラス替えをしたばかりの2年生のクラスのメンバーは穏やかで優しい生徒達で、元気者といえるタイプはひとりもいませんでした。

学年でドッジボール大会の練習中、クラス8人みんな真面目で一生懸命やっています。しかし、ボールが怖い生徒が多いのです。当てようと狙ってくる相手の活きた強いボールをノーバウンドでキャッチして、投げ合うラリーができる生徒はたった2人だけでした。

その2人ともとても大人しくて、1年生の時は学年の他の元気者の陰にまぎれ、特に強い印象もありません。

うーん。勝たせてあげたい。

けど、内心では、無理だろうなあ。せめて予選で1勝だけでもできればいいなあ。一生懸命やっているし、全敗だけは避けたいなあ◎と担任の私はネガティブに思っていました。

しかし！その予想は見事に外れました。

最初は、対戦相手との相性が良かった？運？と思っていたのですが、クラスは予選を勝ち進みます。

そして、決勝！相手は3年生の、ようここまで元気者ばかり集まったなあという超アグレッシブで口も達者な野獣クラス(!失礼!)。うちのクラスが子羊ちゃん達にしか見えません。

「うりゃー。」という3年生の気合い十分の声が響き渡る中、決勝が始まりました。

うちのクラスは声もありません。

ラリーは2人しかできないのです。2人が外野に出てしまった時点でもう手も足も出せません。2人とも必死です。

他の6人の生徒も、逃げる。逃げる。外野の時は、遠くに飛んでいったボールを全力で追いかけます。

……全員、自分のできることを精一杯やりました。

結果、優勝。奇跡の優勝でした。

なぜ、優勝できたのでしょうか？

全員できることを精一杯やりました。

そして何より、「ここは自分達2人がラリーするしかない」と覚悟して臨んだ迷いのない姿勢が強かったのだと思います。

本校の生徒達は、自信がなく、自分を過小評価してしまいがちです。他の誰かがやってくれそうなら、そっちにお任せしたい。きっと今までの球技大会もそう思って後ろに隠れていた2人だったのでしょ。

でも今回はその“誰か”がいなかった。クラスを見渡して、「自分達がやるしかない」と思った覚悟が、自分の力を最大限出し切った結果になったのでしょ。

ちょっと無理してがんばってくれている2人を見て、他の生徒達もいつもよりがんばったのでしょ。その姿がまた2人を後押しします。そういう前向きな気持ちが影響し合っの“奇跡の優勝”だったと思います。

学校、というと先生達大人から学ぶことの価値の高さだけを過大評価する面がありますが、今回のように生徒同士の集団の学び合いの影響はとても大きいものです。

大会が終わり、あの2人は、また大人しい2人に戻りました。でもきっと、いざという時には頼れる2人に変身して活躍してくれるとみんな知っていました。

このクラスの他の生徒達はその後、生徒会に立候補したり、球技は苦手だけどマラソン大会で活躍したり、文化祭の劇を愉快地に盛り上げました。誰かに任せきりにせず、自分の得意な分野では役割を果たそうとしました。

“ここは自分がしっかりしなきゃ”

“できる役割を果たしたい”

楽しい事を一緒にしただけでなく、励まし合っ、しんどい実習や行事を乗り切った仲間だからこそ、そんなふうに思えます。しんどい事だけパスしていると、本当の仲間にはなっていないません。

県下あちこちから集まった本校の生徒達は、こうやって仲間になっていき、役割を考え、そんな気持ちが“責任感”になっていくのでしょ。

さて、これで2学期も終わりです。みなさん、よいお年を◎

